

[社会福祉理論・歴史・問題特別研究]

研究テーマ	公的扶助・貧困・社会保障論
担 当 者	山田 壮志郎
内 容	本特別研究のねらいは、公的扶助や社会保障政策のあり方を考察することを目的とした博士論文の執筆に必要となる研究方法や論文執筆技法を学ぶ点にある。社会保障は、貧困に象徴されるような社会的に生み出される生活困難について、それらを解決すべきであるという社会的合意に立脚しながら、保険や扶助といった政策技術を用いて解決を図ろうとするものである。したがって、本特別研究では、研究方法や論文執筆技法を学ぶと同時に、その前提として、社会保障や公的扶助が拠り所とする理念や価値、政策対象となる人々の生活実態や社会的背景、問題を解決するための政策技術や方法を包括的に理解することを目指す。

研究テーマ	障害問題
担 当 者	木全 和巳
内 容	「障害」と関連する「社会的諸実践」の理論的研究は、実践の科学として、国際的にも、国内的にも、新しい展開を示しつつある。人種、性、宗教、財産、出生などによる「複合的又は加重的な形態の差別」を受けている当事者の生活問題に対する、現代のソーシャル・インクルージョンかつ人権発達保障論的アプローチへの展開である。そこには、「障害」概念や「自立」「自律」概念の検討、「人権」「ジェンダー」「セクシュアリティ」などの問題が含まれる。こうした展開故に、現代日本の政治は、「権利条約」の具現化をはじめとする新たな障害者施策を制定するという課題などを顕在化させている。この特別研究では、こうした国内外の動向を機能障害のある人たちやその家族の生活実態に引きつけて、政策、理念、価値、方法などを実証的、歴史的、社会科学的に吟味することによって、「障害」問題の現代的特質と「障害」福祉の課題を基本的に再構成する意義・必要性を明らかにしたい。

[社会福祉政策・計画論特別研究]

研究テーマ	地域福祉政策
担 当 者	小松 理佐子
内 容	本特別研究では、地域福祉の理論と実践の間を媒介する領域である政策に焦点を当て、人口減少と少子・高齢化を背景に発生している諸課題の解決を図るための政策形成の方法論を取り扱う。一例をあげれば、地域福祉計画が「上位計画」に位置づけを変えたように、地域福祉政策は、社会福祉政策を形成する一分野から、社会福祉政策の総体を現すものへと性格を変えてきた。このように地域への期待が高まる一方で、東京をはじめとする一部の地域を除けば、加速する人口減少によって地域の担い手不足が深刻化している。地域の現状に即した実現可能な地域福祉システムの構築が求められている。以上のことから、本特別講義では、地域の実情に即した地域福祉システムを構築するための方法論を研究する。

研究テーマ	社会老年学・高齢者福祉論
担 当 者	斉藤 雅茂
内 容	人口の高齢化に関わる諸問題への対応は地球規模の重要課題の一つである。本研究では社会老年学および高齢者福祉領域における問題群（貧困・剥奪・社会的排除、社会的孤立、健康格差、ソーシャル・キャピタル、地域共生など）および諸理論・研究手法・研究動向を学び、社会福祉・地域福祉の実践および政策立案に貢献できるエビデンスを提供する研究を行うことを目的とする。本演習を通じて、質的な情報の重要性も踏まえつつ、STATA もしくは SPSS 等の統計ソフトを用いた統計解析の基礎的なスキルを習得し、国際誌で通用する標準的な統計手法に基づく定量的・計量的なデータ解析を行う力を身につけることが期待できる。

研究テーマ	地域福祉論 地域を基盤としたソーシャルワーク
担 当 者	川島 ゆり子
内 容	地域の中で制度の狭間に漏れ落ちてしまうような複合的な課題を抱え、孤立する人々の存在が社会的な課題として注目されてきた。この課題の解決に向けて、個別支援の相談支援体制をより総合的に展開していく必要性が生じる。また一方で、このような社会的な課題に対してセーフティネットとなり得る地域の中でのつながりを構築していくことも求められている。 本特別研究は、多角的なアプローチから地域福祉の推進を目指す。ミクロからの相談支援のアプローチ、メゾからの地域組織化・資源開発に向けたアプローチ、マクロからの政策・計画アプローチを連動させながら、地域を基盤としたソーシャルワークの展開を、実践・研究を往還しながら推進していくことをテーマとする。

研究テーマ	高齢者福祉論
担 当 者	中島 民恵子
内 容	本特別研究では、高齢者の福祉的課題をめぐる実践・理論・政策を把握し、それらを実証的に分析する手法と論文執筆の技術を得ることを目的としている。高齢者の生活に関連する福祉的課題は、超高齢社会において複雑化している。医療・介護資源の制約、家族機能の低下、認知症高齢者や単身高齢者の増加等により生じる福祉的課題を、社会福祉学的観点から多角的に検討することが求められる。実証的な研究等を通して、実践を支える概念や理論の発展に貢献する能力を養うことが期待できる。また、諸外国の高齢者福祉制度の理解や比較可能な実証データを用いた国際比較を通して、取り上げる研究課題を相対的に捉える視点を養うことを目指す。

〔社会福祉実践・援助論特別研究〕

研究テーマ	ケアマネジメント実践論
担 当 者	篠田 道子
内 容	本特別研究におけるケアマネジメント実践論は、狭義のケアマネジメントにとどまらず、保健・医療・福祉・介護分野にまたがるもので、テーマは多岐にわたる。具体的には、組織経営、人材マネジメント、多職種連携教育、サービスの質の評価、終末期ケアマネジメント、ケアマネジメントの国際比較などである。研究方法は、実践研究、臨床研究、プログラム評価研究や介入研究など実証研究が中心であり、トライアングレーション法(量的・質的調査研究法)を推奨している。

研究テーマ	福祉住環境論
担 当 者	児玉 善郎
内 容	本研究では、子ども、高齢者、障害者をはじめ支援を必要とするすべての人が、地域で安心して住み続けられるようにする上で、生活の基盤となる福祉住環境(住居、施設、まちの環境等)に焦点をあて、現状の実態を解明するとともに、その問題・課題を克服する上での具体的方策について、空間的視点および制度・政策的視点から検討する。 支援を必要とする人々の生活を支える上では、サービスや援助が適切に提供されることが必要であるが、それらを有効に機能させる上では、生活の場となる住居、施設やまちの環境等を整えることを併せて検討することが重要となる。

研究テーマ	ジェンダーと社会福祉
担 当 者	末盛 慶
内 容	本特別研究の目的は、家族生活、労働生活、ジェンダーをめぐる多様なテーマに関する理論的知識を得ること、そして学術研究に必要な研究方法および論文執筆の技法を学ぶことである。家庭と労働は社会を支える2大要素であり、社会福祉分野および少子化のなどの社会構造にも大きな影響を与える。現在、家庭生活も労働生活も変化の途上にあるが、こうした変化を社会学的およびジェンダーの視点で読み解き、今後の方向性を探求していく。 本特別研究により、①社会学およびジェンダー論など社会学的な視点、②論理学を基盤とした研究上必要とされるリテラシー、③質的量的双方に関する方法的な知識、技術、態度を獲得することができる。

研究テーマ	司法福祉論
担 当 者	湯原 悦子
内 容	本研究は司法を通じて解決を図ることが求められる問題群（刑事事件など）や司法を活用することが解決に役立つような問題群（家事事件など）に関する諸理論を学び、学術研究に必要な研究方法および論文執筆の技法を修得することを目的とする。司法福祉は法的決着がついてもなお残る人々の生きづらさ、時を変え、場所を変え、同じような問題が繰り返される事項について、福祉の視点から真の意味での解決、臨床的な解決のあり方を模索する学問である。本研究を通じて、司法と福祉双方の視点や価値を熟知し、司法福祉領域の研究と分析を行う力を身に付けることが期待できる。

研究テーマ	反抑圧ソーシャルワーク
担 当 者	大谷 京子
内 容	本特別研究では、ソーシャルワークにかかわる理論と実践に関する多様なテーマを探究する方法と、博士論文作成の技法を習得することを目指す。ソーシャルワークは個人の尊重と社会正義を理念とするため、社会的不利な状況に置かれる個人と、社会の抑圧構造を視野に入れる。その研究範囲は、理論、方法、専門性、専門職論と多岐にわたり、世界中で多くの研究が展開され、進歩し続けている。日本の本領域の発展に貢献する研究が求められている。本特別研究では、①世界的な潮流と日本の現状の把握、②社会福祉学研究の視点の習得、③研究方法論の習得ができる。

研究テーマ	ソーシャルワーク論
担 当 者	保正友子
内 容	本特別研究では、ソーシャルワークに関する諸理論、とりわけソーシャルワークの人材育成について学び、時代のなかで要請されることを、価値・知識・技術面から探求し、博士論文作成に必要な研究能力の向上を目的とする。 養成校時代から現場実践の過程で求められる実践能力とはどのようなことか、ソーシャルワーカーにはどのようなキャリア形成が求められるのか、実践能力向上やキャリア形成を阻む要因と解決法、ソーシャルワーカーが行うマネジメントとは何かという視点から研究を深めていく。 本特別研究により、①ソーシャルワークとソーシャルワーカーの人材養成のあり方を探求する視点、②社会福祉学を基盤とした研究的なものの見方・考え方、③社会福祉学の研究方法論の修得ができる。

〔社会福祉実践・援助論特別研究〕

研究テーマ	子ども家庭福祉論
担 当 者	野尻 紀恵
内 容	近年、日本においては少子化・核家族化・都市化・情報化・国際化など社会の大きな変化を受け、人々の価値観や生活様式が多様化している。一方、人間関係の希薄化、地域コミュニティの衰退、経済性や効率性の過重視、大人優先社会などの状況がある。このような社会で育つ子どもを巡る環境、家庭、学校は複雑な様相を見せ、子どもや子育て世帯の孤立が指摘されている。本特別研究では、子どもを真ん中において社会の困難を見つめ、これらの状況を整理し、子どもを取り巻く環境の実態を解明することに取り組む。さらに、子どもを育てる家庭・地域、子どもが多くの時間を過ごす学校等での子ども家庭ソーシャルワークによる支援の有様について、ミクロ・メゾ・マクロにおける様々な視点から実証的に検証することを目指す。